

付 吉会鉄道問題

39 昭和3年1月12日 在中国芳沢公使より

田中外務大臣宛(電報)

吉会鉄道請負契約締結に關し楊宇霆に対する

説得について

北京 1月12日後発  
本省 1月13日後着

第三一号(極秘)

十二日江藤ノ内話ニ依レハ八日及九日同人張作霖ト会見田中總理ノ伝言ヲ伝ヘ何等カノ弁法ヲ以テ鐵道請負契約至急締結方督促シタルニ張ハ最初ハ山本協定カ日本ノ新聞ニ報道セラレ支那國民ノ反対ヲ喚起シタル為苦境ニ陥リタリトテ反対ノ口吻ヲ洩ラセシモ談合ノ結果最後ニハ兎ニ角簡単ナル弁法ヲ講スル事トシテ楊宇霆ニモ相談スヘシトテ別レタル由ナルカ目下吉林ノ当事者タル張作相ハ出陣シ居ルカ故ニ其方ニ張代表及町野、江藤赴キテ契約ニ調印サスカ然ラサレハ楊ヲ始メ潘復及常蔭槐ヲ説キテ之ト契約ヲ結フカノ二途アル處楊ニ対シテハ先ツ後者ノ方法ニ從ヒ説得スル

積ナリ滿鉄ニテハ吉会及長大ノ両線ヨリ始メ大体吉敦及洮昂契約ノ例ニ倣フ筈ナル趣ナリ尚楊ハ十日頃迄ニ帰京ノ筈ナリシモ十三日頃迄延ハシタル由奉天へ転電セリ

40 昭和3年3月(5)日 在中国芳沢公使より

田中外務大臣宛(電報)

吉会鉄道問題交渉に關する江藤の談話について

北京 発  
本省 3月5日後着

第二七三号

過日來大連ニ於テ滿鉄側ト打合中ナリシ江藤ハ四日帰燕其談ニ依レハ大連ニ於テ吉林側ト屢々電報ニテ交渉シタルカ最近鍾交渉署長ハ三月二十八日以後ニアラサレハ來燕シ得サル旨申シ来リ他方熙參謀長四日吉林ヨリ来リ五日直ニ張作相ト会見ノ為戰線ニ赴キタルカ右ハ鐵道敷設反対運動ノ為ナル由ナリ尚楊宇霆、常蔭槐ハ愈々開通扶余線敷設ヲ実

行セムト目下著々計画ヲ進メソツアル由ナリ

41 昭和3年3月21日 在中国芳沢公使より

田中外務大臣宛(電報)

熙參謀長、張作相は吉会鉄道敷設に反対の意

向なきことについて

北京 3月21日後発  
本省 3月21日後着

第三五三号(極秘)

往電第二七三号ニ閲シ

江藤ハ熙參謀長カ戰線ヨリ吉林ニ帰任ノ途中十一日乃至十三日当地ニ立寄リタル際同參謀長ト会見シ更ニ二十一日張作相(十六日戰線ヨリ來京)ト会見シタルカ孰レモ鐵道ノ敷設ニ対シテハ反対ノ意向無ク万事ハ四月初旬当地ニ来ル筈ナルカ鍾交渉署長ト取極メラレタント申居タル由ナリ尚

其ノ後ノ情報ヲ綜合スルニ熙參謀長カ張作相会見ノ為戰線ニ赴キタルハ鐵道反対ノ為ニ非スシテ往電第二八三号ノ通金融問題ノ為ナルカ如シ

42 昭和3年3月26日 在中国芳沢公使より  
機密第三六〇号

吉会鉄道敷設にあたり天図線利用計画に關する政府の方針請訓について

昭和3年3月二十六日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉  
外務大臣男爵 田中 義一殿

天図鉄道ニ閲スル件

本件ニ閲シ飯田南滿州大興合名會社長ヨリ三月十日付ヲ以テ閣下ニ請願ノ次第アリタル趣ニテ右請願書写送付ノ上右希望達成幹旋方依頼越シタル處吉会鉄道ノ敷設ニ就テハ客年閣下発奉天宛第九一號御訓令ノ通大體天図鉄道ヲ廣軌ニ改築シ之ヲ利用スル御意向ナルヤニ見受ケラレ又事實上ヨリ見ルモ同鐵道ニ対シテハ從來我政府ニ於テモ援助シ來リ他方本鐵道ノ存在ニ依リ吉会鉄道ノ敷設力促進セラレタル事情モアリ兎ニ角飯田從來ノ努力ト功績トハ無視シ得サル次第ニ有之他方又技術上ヨリ云フモ吉会鉄道敷設ニ當リ天

國鐵道ヲ活カスコトハ何等不利益トナルモノニ非サルヤニ  
モ聞及タルニ就テハ吉会鐵道ハ當然天國鐵道線路ヲ經由ス  
ルモノト察スル處滿鉄側ニテハ現在天國鐵道以外ノ線路ニ  
依リ吉会鐵道ヲ敷設セムコトヲ計画スルモノナルヤノ聞込  
モ有之ニ就テハ滿鉄側果シテ右様ノ計画有之哉政府ノ御方  
針ト共ニ折返シ御回示相成度

編注 昭和期I第一部第一卷一一五文書別電参照。

43 昭和3年4月24日 田中外務大臣より  
在中国芳沢公使宛

吉会鐵道予定線変更する考え方の政府方針の  
堅持について

亞一機密第一一六号  
昭和三年四月二十四日

在支那  
特命全權公使 芳沢 謙吉殿

外務大臣男爵 田中 義一

天國鐵道及吉会鐵道予定線ニ閲スル件

本件ニ閲シ三月二十六日付機密第三六〇号貴信ヲ以テ御申  
(四二文書)

44 昭和3年4月27日 在中国芳沢公使より  
田中外務大臣宛(電報)  
吉会鐵道細目協定調印方を張作霖に督促した

付記一 四月二十四日付在大連山本(条太郎)南満  
州鐵道公社社長より在北京江藤(豊三)宛  
電報

結果に関する江藤の内報

北京 江藤宛  
天國鐵道及吉会鐵道予定線ニ閲スル件

本件ニ閲シ三月二十六日付機密第三六〇号貴信ヲ以テ御申  
(四二文書)

吉会鐵道細目協定に関する張作霖の意向に  
ついて  
吉会鐵道細目協定に關し至急調印方を張作  
霖に説得されたいことについて  
二 四月二十六日付在北京江藤より在大連山本  
南満州鐵道公社社長宛電報  
吉会鐵道細目協定に関する張作霖の意向に  
ついて

(付記二)

北 京 發  
本省 4月27日後着

四月二十六日

北京 江藤宛

山本社長宛

電見元帥ハ日本政局ノ變化ノ有無ニ不拘一旦約束セシ鐵道  
問題ハ必ス実行セサル可カラサルハ勿論ナルモ過日來滿州  
ニ於ケル滿鉄問題極度ニ官民ノ神經ヲ刺激シ元帥カ日本ノ  
強迫ニ屈服シ外交諸問題ヲ譲歩ストノ非難多ク為ニ時機ヲ  
見鍾毓ノ來京ヲ待タス其ノ内張作相ニ打電シ其ノ返電ヲ待  
チ夫レニ由リ貴下(江藤)ニ直接吉林ニ至リ省長ト協議調

印セシムル予定ナリシ処丁度山本社長ノ電報ニ依リ本日直  
ニ張作相ニ電命シ其ノ返電ヲ待チテ貴下吉林行ヲ實行セン  
ト言明セリ尚元帥ハ此ノ方法ヲ以テ為シ能ハサル場合ニハ  
余ニ他ノ手段アリ必ス実行スヘキ旨付言セリ

第五一七号(極秘)  
(四二文書)  
往電第三五三号ニ閲シ  
江藤ノ内報ニ依レハ同人ハ山本社長ヨリ政府ハ議會ヲ切抜  
ケル旨ノ電報ニ接シタル故二十六日町野ト共ニ張作霖ヲ訪  
問督促シタル結果張作相ニ電報シ場合ニ依リテハ江藤自身  
吉林ニ赴キ吉林當局ト交渉スルコトニ打合セタル由委細江  
藤ヨリ山本ニ電報シタル趣ナルニ付御聽取相成リタシ

(付記二)

四月二十四日

社長発

45 昭和3年8月11日 在奉天林總領事宛（電報）

## 吉会・長大両鉄道敷設契約の公表と着工に關する満鉄側の方針について

本省 8月11日後発  
する満鉄側の方針について第一五八号  
満鉄ヨリ此際長大及吉会（老頭溝ヨリ岡們江ニ至ル間何レノ線ヲ取ルカハ追テ決定スルコトトシ）ノ契約ヲ發表シ工事ニ着手スルコトニ閑スル意見ヲ求メ來リタルニ付八月十五日後工事ニ着手スルコトニハ大体ニ於テ異議ナキモ日本力妥協問題ノ成行ニ憤慨シテ自由行動ヲ取りタリト言フカ如キ感想ヲ支那側ニ与フルコトハ面白カラサルヲ以テ先ツ張學良及張作相ト此点ニ関シ篤ト打合セヲ遂クルコト致度又契約ハ此際發表スルコトハ之レヲ避ケ度右ノ方針ニ基キ貴官ト打合セ万事進行スヘキ旨回答シ置キタルニ付右ニ御含ノ上然ルヘク御措置アリタシ  
北京ニ転電アリタシ本省 8月11日後発  
第一五八号

46 昭和3年8月16日 在奉天林總領事より

## 吉会・長大両鉄道工事契約実現方に關し張学良との会談について

奉天 8月16日後発  
吉会・長大両鉄道工事開始に関する意見具申第五二四号  
貴電第(四)五八号吉会、長大両鉄道工事契約実現ニ關シテハ満鉄側ト打合ノ上八月十五日本官張學良ト面談ノ際夫レトナク談及セル處学良ハ山本社長ノ早ク帰滿スルヲ望ミ居レリト述ヘタルニ付本官ヨリ当地ニハ目下斎藤理事滞在シ居リ又江藤モ一両日中ニ來奉スヘキニ依リ何事モ兩人ト相談セラレテ差支ナキ旨述ヘテ帰リ右ノ旨斎藤理事ニ伝ヘ置キタリ

吉林、齊々哈爾ヘ転電セリ

47 昭和3年8月17日 在吉林川越（茂）總領事より  
田中外務大臣宛（電報）本省 8月18日前着  
第一五八号ニ閑シ

奉天宛貴電第一五八号ニ閑シ  
(<sup>(1)</sup>第二九号)  
吉林 8月17日後発  
本省 8月18日前着  
(<sup>(2)</sup>四五文書)

長大及吉会両線工事開始ニ閑スル卑見差当リ左ノ通申進ス  
(一)東三省ニ於ケル政情ノ大勢ヲ案スルニ表面ハ兎ニ角実質的ニハ漸次国民党側ノ勢力浸潤シ来ルヘキハ争ヒ難キ所ニシテ本件鉄道工事ノ如キモ遲延スレハスル程之カ実行上困難ノ度ヲ増スニ至ルヘキヲ以テ此ノ際至急工事ニ着手シ且成ルヘク迅速ニ完成スルヲ得策ト信ス

(二)工事開始ノ方法トシテ張學良ヨリ吉林省府ニ向ヒ本件鉄道工事契約ハ作霖在世時代北京ニ於テ正式ニ成立セルモノニシテ既ニ開工期限ニ達シタルヲ以テ夫々工程局ヲ設ヶ趙鎮ヲシテ之カ局長ヲ兼任セシメ直ニ工事ニ着手セシムルニ付地方官ヲシテ適當ノ援助ヲ与ヘシメラレタシ

トノ通告ヲ發セシムルヲ良策ト思考ス尚茲ニ注意ヲ要スルハ本件ハ何處迄モ既定ノ事件トシテ取扱ヒ保安会又ハ交通委員会ニ掛クルカ如キコトハ絶対ニ之ヲ避ケルノ要アルコト及吉林側ニ對シテハ承諾ヲ求ムルノ形式ヲ執ラ

無カルヘシト推測セラル前項ニ吉林側ニ對シテハ承諾ヲ求ムルヲ避ケ单ニ通告ニ止メシムル事得策ナリト云ヘル理由ハ茲ニ存ス現ニ熙參謀長（毎々報告ノ通彼ハ昨春作相留守以来盛ニ羽翼ヲ張リ今ヤ事實上督弁ノ權力ヲ振ヒツツアリ）カ林訪問ニ對シ(1)海吉、海林線及五常線ハ是非吉林省自身ノ手ニテ作り度キ希望ニ付日本側ノ資本ニ依ル事ハ絶対ニ反対ナリ(2)敦化延長線ハ自分トシテハ

異存ナキモ朝鮮ト直接連絡スル事ハ恐ラク民意之ニ反対スヘシハ長大線ハ地方人民多大ノ利益ヲ受クヘキニ付民意モ反対ナカラント語レルニ徵シ大体彼等ノ意向ヲ窺フヲ得ヘシト存ス尚茲ニ付記スルノ要アルハ民意ト云フ事ナルカ當地方ノ現状ニ於テハ所謂民ハ未タ事実<sup>カンセイ</sup>ニシテ官憲ノ意向即チ民意ト見テ大過ナキ事ナリ

(4) 吉林ノ現状ヨリ見テ官憲カ本件工事ニ対シ好意的援助ヲ与フル事ハ望ミ難キモ去リトテ積極的ニ妨害モ敢テ為シ得スト考ヘラル次第ハ前陳ノ通ナルカ然ラハ實際工事ヲ始ムルニ当リ如何ナル程度ニ於テ地方官憲ノ助力ヲ要スルカニ付吉敦線ノ實例ヲ見ルニ地方官憲ノ援助ヲ要スル一種トシテ土地買収ニ在ル次第ナルカ土地買収ニ関シテハ吉敦ノ場合ト同様滿鉄側ハ直接表面ニ立タス中川代表指導ノ下ニ趙鎮ヲシテ旨ク地方官憲ト折衝セシムルヲ要スル次第ニテ是等ノ場合ヲ考慮シ予テ中川ト打合ノ上吉林側ニ対スル趙鎮ノ面子ヲ良クシ置ク様凡ユル機会ヲ利用シツタル次第ナリ

(5)<sup>(3)</sup> 滿鐵側ニ於テハ老頭溝、國境間ノ「ルート」問題カ對内關係上種々紛糾ノ惧アルヲ理由トシテ此ノ際ハ不敢敦

前顧ノ通リ大勢上ヨリ見テ此ノ際鉄道ハ更ニ速ニ着手シ可成早ク完成スルヲ得策トスルノミナラス對内關係ノイサコサハ何時迄經ツテモ消ユルコトナク寧ロ永引ク程深刻トナルノ惧アルヘキニ付老頭溝、國境間ノ「ルート」

モ此ノ際直ニ是ヲ決定ノ上敦化及國境双方ヨリ同時ニ起工シ一氣ニ完成ノ要アリト確信ス而シテ是カ決定ノ標準ハ本鐵道カ日本海ヲ通シテ日本ト北滿トヲ連結スヘキ一大幹線ナルニ鑑ミ距離、輸送力及吞吐港等主要ノ諸点ヨリ大局上ノ考量ヲ加ヘ政治上、經濟上最モ有利ナリト思ハル線ヲ選フヘキハ當然ノ議ニシテ右決定ハ滿鉄等ニ任セラルコトナク如上ノ見地ヨリ宜シク閣議ニ於テ更ニ審議決定セラルヘキモノト信ス二十年來ノ懸案今ヤ漸ク解決ノ機運ニ際会セルニ臨ミ些々タル對内問題ノ為ニ又々是ヲ遷延セシムルカ如キコトアリテハ遺憾至極ト存スルニ付此ノ際断乎シテ是ヲ實行セラレンコト切望ニ絶エス若シ夫レ区々タル對内問題ノ如キニ至リテハ自ラ他ニ解決ノ途アルヘキヲ疑ハス

(6) 契約發表見合セノ得策タルハ御高見ノ通リナルカ吉敦ノ

場合ト同シク必要ニ応シ其ノ内容ヲ支那側ニ内示スルノ要モ起ルヘク仮令其ノ要ナシトスルモ愈工事始マルトスレハ關係領事トシテ其ノ契約内容ヲ知悉シ居ルノ要アルコト申ス迄モナキ次第ナルニ付本件契約文及關係文書写至急御送付相成タシ

北京、奉天へ転電セリ

48 昭和3年8月19日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

### 吉会・長大兩鐵道敷設推進方に關し意見具申

奉天 8月19日後発  
本省 8月19日後着

第五二八号(極秘)  
(四六文書)  
往電第五二四号借款鐵道工事ニ關シ

斎藤理事ハ江藤ト共ニ十七日張學良ニ面会シロ切リヲ為シタル処学良ハ實現ノ意志アルモ今暫ク人心ノ安定スル迄待タレ度キ旨答ヘタル由ニテ江藤ハ十八日離奉一時帰京ノ途ニ就ケルカ十八日夜晚餐會開催前學良ハ本官ニ対シ斎藤ヨリ話有リタル吉会、長大二線ハ是非實現シタク其ノ方法等

化、老頭溝間ノミヲ敷設セントノ意向ナルカ如クナル処

前顧ノ通リ大勢上ヨリ見テ此ノ際鉄道ハ更ニ速ニ着手シ可成早ク完成スルヲ得策トスルノミナラス對内關係ノイサコサハ何時迄經ツテモ消ユルコトナク寧ロ永引ク程深刻トナルノ惧アルヘキニ付老頭溝、國境間ノ「ルート」モ此ノ際直ニ是ヲ決定ノ上敦化及國境双方ヨリ同時ニ起工シ一氣ニ完成ノ要アリト確信ス而シテ是カ決定ノ標準ハ本鐵道カ日本海ヲ通シテ日本ト北滿トヲ連結スヘキ一大幹線ナルニ鑑ミ距離、輸送力及吞吐港等主要ノ諸点ヨリ大局上ノ考量ヲ加ヘ政治上、經濟上最モ有利ナリト思ハル線ヲ選フヘキハ當然ノ議ニシテ右決定ハ滿鉄等ニ任セラルコトナク如上ノ見地ヨリ宜シク閣議ニ於テ更ニ審議決定セラルヘキモノト信ス二十年來ノ懸案今ヤ漸ク解決ノ機運ニ際会セルニ臨ミ些々タル對内問題ノ為ニ又々是ヲ遷延セシムルカ如キコトアリテハ遺憾至極ト存スルニ付此ノ際断乎シテ是ヲ實行セラレンコト切望ニ絶エス若シ夫レ区々タル對内問題ノ如キニ至リテハ自ラ他ニ解決ノ途アルヘキヲ疑ハス

(6) 契約發表見合セノ得策タルハ御高見ノ通リナルカ吉敦ノニ付テハ常蔭槐ニ依頼シ置ケル旨ヲ特ニ語リタルヨリ觀ルニ彼ハ大体ニ於テ右借款契約實行ノ決意アルモノト觀測セラル然ルニ吉会鐵道中老頭溝ヨリ豆滿江ニ至ル線路ヲ何レニトルヘキヤ又之ヲ合弁ニスルカ將又借款ニスヘキカ等ニ関シ政府ニ於テ未タニ御決定無キヤニ伝ヘラルル處元來本鐵道ハ借款鐵道トシテ多年商議セラレ來リシモノニテ今更ルコト容易ノ業ニアラス天國鐵道トノ關係及東方會議決定ノ方針等内部的關係ノ如何ハ之ヲ別トシ折角機運ノ動キ来レル今日ナルヲ以テ老頭溝及豆滿江間ノ鐵道線路モ至急御決定ノ上借款鐵道トシテ敦老線ト同時ニ起工出来ル様御詮議アランコトヲ切望ス

在支公使ヘ転電セリ

49 昭和3年8月22日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

### 吉会鐵道のルート問題に關する鈴木在間島總領事の意見について

奉天 8月22日前發  
本省 8月22日後着

## 第五三八号

目下当地出張中ノ間島鉄木総領事ヨリ左ノ通

吉会線「ルート」問題ニ関シ清津羅津何レヲ呑吐港ト為ス  
ヘキヤハ国内地方問題ニ過キサルモ竜井村ヲ經由セサル計

画ハ我間島統治ノ根柢ヲ破壊スルモノニシテ絶対ニ贊同シ  
能ハサル處ナリ本問題ニ関シテハ天國線ヲ利用スル事ニ決

定セラレ居ル旨曩ニ御訓令アリ又國們江國際鐵橋建設ニ関

シテモ同様ノ御訓令アリ其ノ後何等変更無キ事ト考ヘラル  
右ノ方針ニ依ルヘキハ元ヨリ当然ニシテ本官ノ最希望スル

所ナルモ若シ政府ニ於テ從來ノ方針ヲ変更セラレ是非共北  
廻線ヲ取ラムトセラルナラハ局子街ヨリ竜井村ニ出テ潼

閔鎮ニ於テ朝鮮鐵道ニ接続スルカ又ハ朝陽川銅仏寺ノ中間  
ヨリ竜井村ニ入りリ夫ヨリ局子街ニ出テ同シク潼閔鎮ニ於テ  
朝鮮鐵道ニ接続スルヲ適當ト考ヘラル右ハ局子街ヨリ直接  
穩城ニ於テ接続スルモノト比較スル時ハ多少遠距離トナル  
ヘキモ竜井村ヲ經由スル為メ間島ノ物資ヲ吸收スル上ニ於  
テ非常ニ有利ナル而已ナラス朝鮮鐵道ニ依ラムトスル旅客

ノ為ニ極メテ便利ナリ又支那側線短縮ノ為運賃上ノ利益ア  
リ此ノ計画ナラハ間島清津、雄基等各方面トモニ無事ニ取  
マリ望アリ且将来羅津ヲ經營スルニ於テモ好都合ト思ハル  
御参考迄

在支公使、吉林、奉天へ転電セリ

50 昭和3年9月4日 在奉天林總領事より  
田中外務大臣宛（電報）

## 吉会鐵道問題に關し張學良および張作相との

面談について

奉天 9月4日前發  
本省 9月4日後着

## 第五六九号

九月三日張學良ニ面会ノ節談偶々吉海鐵道問題ニ及ヒタル  
ニ學良ハ該鐵道ニ関シテハ吉林民間人士ノ輿論カ懸念セラ  
ル旨ヲ語リ前途ニ多少ノ困難アルヤノ様子ヲ示セリ依テ  
今四日前張作相當館へ來訪セル際吉敦鐵道モ竣工ニ近ツ  
ケルヲ以テ滿鉄ニ於テハ引続キ吉海鐵道工事ヲ繼續スヘキ  
ニ依リ貴督弁ノ御援助ヲ煩ハス旨語リタルニ作相ハ北京ニ

於テ昨年秋ヨリ今年五月ニ至ル本件ニ関スル彼ノ立場ヲ説  
明シ尚最近學良ヨリ該借款鐵道ニ関シ考ヘラレ度キ旨談話

アリタリト答ヘタルモ明瞭ナル意思表示ヲ為サリシカ作

相ハ二、三週間後ニハ吉林ニ帰任スル筈ニ付該鐵道工事開

始ニ閔スル交渉ハ作相ノ當地滯在中特ニ閔東軍ノ原駐地復

帰前ニ進捗セシムルノ必要アリト思考ス就テハ右滿鉄社長

ニ御転知ノ上大至急進捗セシムル様御詮議ヲ希望ス

北京、吉林へ転電セリ

51 昭和3年9月4日 在奉天林總領事より

田中外務大臣宛（電報）

## 吉会鐵道敷設工事進行の得策なる旨斎藤理事

に対する談話について

奉天 9月4日後発

本省 9月5日前着

第五七三号

往電第五六九号ニ関シ（吉海鐵道問題）

張作相ハ本件鐵道敷設ヲ必シシモ妨害セサル口吻ナリシニ  
顧ミ此ノ際機ヲ逸セス進行セシメ度ト存シ前電事情モアリ

機密第二三〇号

昭和3年10月18日

在局子街 在局子街田中（作）副領事より  
田中外務大臣宛

（10月25日接受）

在局子街

副領事 田中 作（印）

外務大臣男爵 田中 義一殿

支那側ノ吉会鐵道布設反対運動ニ関シ報告ノ件

当地支那官民ニ於テ吉会鐵道問題ニ関シ反対運動ヲ開始セ  
ル次第ハ不取敢拙電第一八号並第一九号ヲ以テ報告ニ及ヒ  
タル處支那側ニ於テモ從来トモ本問題ノ成行ヲ注視シ内面  
相当考究ヲ累ネツツアリタル模様ナルモ過般來南北妥協說  
有力ニシテ遠カラス之カ実現ノ暁、国民政府ハ該鐵道ノ建

設ヲ承認セサルモノト予想セルト又之ヲ承認スルトシテモ間渾政治經濟ノ中心地ニシテ該鐵道ノ建設ニ依リ両面トモ吉林省城トノ連絡ヲ一層密ナラシムル必要上必ス局子街ヲ幹線トルスル北部線建設ニ決定シ居タル等ノ事情ニ依リ前途ヲ樂觀シ居タル為メ今日迄別ニ何等具体的運動ニ出テサリシモノナルカ最近各新聞紙上日本案トシテ天図鐵道ヲ買収シ清津ヲ終端港トルスル南部線建設ニ決定セル趣熾ニ報道セラレ其ノ結果局子街ハ依然支線トナルニアラスヤトノ懸念ヲ深フスルニ至レルヨリ先年天図輕鉄ノ支線布設ニ依リ其ノ経済力ヲ著シク他地方ニ奪ハレ常ニ總ユル機會ニ之カ挽回ヲ策シツツアル当地支那官民ハ急ニ躍起トナリ斯クテ若シ支那政府ニ於テ右日本案ニ同意スルニ至ラハ将来局子街ノ貿易經濟ハ益々打撃ヲ被ルノミナラス地方經濟ノ盛衰ハ直ニ其地官署ノ財政状態ニ反映スルヲ以テ今ヤ官民トモ黙過シ難ク文官側ハ新道尹未着ノ為メ熱ヲ欠キ居ルモ武官側ハ鎮守使中心トナリ一般官民ヲ説キ終ニ既電ノ如キ南部線反対運動ヲ開始スルニ至リタルモノノ如シ而シテ右ニ閑シ其反対理由トシテ日本側将来ノ軍事行動ニ言及シタルハ經濟論對理由トシテ日本側将来ノ軍事行動ニ言及シタルハ經濟論

53 昭和3年10月26日 在吉林川越總領事より  
田中外務大臣宛(電報)

吉会鐵道敷設問題に対する吉林省城内学生等の示威運動について

往電第四九号ニ閑シ

54 昭和3年10月27日 三宅(光治・関東軍參謀長より  
南(次郎)參謀次長宛(電報)

吉会鐵道敷設反対運動および張學良の訓電について

吉林 10月26日後発  
本省 10月26日後着  
閏電第四四六号  
(10月30日外務省写接受)

吉林省城各團体代表及延辯代表等ハ既報ノ通二十五日誠代理省長(熙參謀長赴長不在)ニ面会陳情シタル處誠ハ吉林及奉天當局ハ民意ニ拠テ處理スヘキニ付過激ノ行動ニ出テサル様諭告スル処アリタル趣ナルカ同代表等ハ本二十六日夜行ニテ赴奉ノ予定ナリト又本二十六日朝來省城各學校學生等約三千名ハ各自「打倒帝國主義」「打倒賣國奴」「反對吉會鐵道」等ノ小旗ヲ携ヘ省政府省議會等ヲ歴訪示威游行ヲ行ヘルカ官憲ノ取締嚴重ヲ極メタル為氣勢揚ラス午後二時無事解散セリ

北京、奉天へ転電セリ

ノミニテハ目的達成ノ見込ナキ為メ斯クハ懸引的ニ出テタルモノニテ其ノ真意ハ依然經濟的論拠ヨリ局子街ヲ幹線トルスル北部線建設ヲ要望セルモノト觀測セラル尙ホ當地商工及教育界団体ハ十七日陳情委員一行ノ出發ニ際シ「外人ノ築路ニ反対ス」「築路反対陳情委員ヲ歓送ス」等ノ小旗ヲ持チ示威行列ヲ試ミタルカ右布設反対ハ素ヨリ表面ノ叫ニテ其内容ハ結局其ノ最後ニ於テ局子街ノ經濟価値ヲ有利ニ導カントスル例ノ支那一流ノ懸引ニシテ又行列ノ如キモ先年天図輕鉄布設ニ反対ノ結果失敗ヲ招キタル経験モアリ且ツ官憲側ノ注意モアリタルコトトテ極メテ穩健静肅ニ行ハレタリ尚ホ本鐵道布設ノ曉ハ左ラテタニ政治的ニモ經濟的ニモ吉林省城ト接近連絡シ一方朝鮮經由貿易ト対抗セントスル當地方支那官民ノ氣勢益々濃厚ナラントシツツアリ又現ニ外商ニ於テモ製粉石油等ノ當地方重要物資ヲ吉林ヨリ搬入セントスル計画モアリ旁々将来支那側ノボシエットヲ終端港トルスル鐵道布設說モアル折柄吉会線ノ通過路線如何ニ關シテハ此際最モ慎重考究ヲ要スルモノアリト思考セラル右御参考迄報告ス

本信写送付先 奉天、間島各總領事

省城各團体代表及延辯代表等ハ既報ノ通二十五日誠代理省長(熙參謀長赴長不在)ニ面会陳情シタル處誠ハ吉林及奉天當局ハ民意ニ拠テ處理スヘキニ付過激ノ行動ニ出テサル様諭告スル処アリタル趣ナルカ同代表等ハ本二十六日夜行ニテ赴奉ノ予定ナリト又本二十六日朝來省城各學校學生等約三千名ハ各自「打倒帝國主義」「打倒賣國奴」「反對吉會鐵道」等ノ小旗ヲ携ヘ省政府省議會等ヲ歴訪示威游行ヲ行ヘルカ官憲ノ取締嚴重ヲ極メタル為氣勢揚ラス午後二時無事解散セリ

北京、奉天へ転電セリ

鉄道問題ニ閑シ延吉代表及教育會ノ一部ニ於テ反対運動ヲ試ミツツアルモ商會並省議會方面ニ熱ナク一般ニ氣勢揚ラス信スヘキ諭者ノ報告ニ依レハ最近張學良ヨリ「外交ハ實業ヲ開發シ利權ヲ損セサルヲ前提トシ民意ト主權ノ尊重ヲ期ス此際越軌ノ運動ヲナシ外人ニ口実ヲ与フヘカラス云々」トノ訓電ニ接シ當局ハ之ヲ延吉官憲及來吉中ノ代表ニ伝達セリト諸情報ヲ綜合スルニ吉林當局責任回避ノ決心ハ堅固ニシテ恐ラク最後迄持続ス可ク結局張學良カ責任ヲ負フコトニ依リ實現スルハ止ムヲ得ストナシアルカ如シト信セラル

北京、奉天、哈市 済

各地トモ漸次通謀呼応セントスル形勢アリ而シテ支那側力

右民論ノ後援ニ依リ問題解決上ノ立場ヲ有利ナラシメント

企謀シ居ルコトハ今次運動ノ主因ヲ成シ其他例ノ如ク反面

対内策ニ利用シ居ルヤノ節モアリ兎モ角目下ノ処ニテハ総

更ニ運動拡大セストモ限ラス左レハ右ヲ以テ此際日支協定

ニ於テ決シ得ヘキ当地方路線通過地點如何ノ如キ単ナル局

(1月2日接受)

昭和三年十月二十七日

在局子街

副領事 田中 作(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

吉会鐵道敷設反対運動状況ニ関スル件

本件ニ関シ其後探聞スルトコロニ處レハ吉林省議会等各団

体ハ当地各界反対連合会ニ対シ共同力爭スヘキ旨ノ激励電

報ヲ寄セ東三省交通委員会ハ民意ニ依リ力爭ス輕挙妄動シ

テ口実ヲ貽ササル様交渉解決ヲ静待セヨト打電シ来レリ該

運動ハ最初奉吉当局ノ差金ノミナラス予テ各地民間団体モ

当局ノ意ヲ含ミ先ツ当地ニ於ケル運動開始方ヲ内密申越居

リ機会ヲ狙ヒツツ起リタルモノニシテ彼等ハ日本将来ノ政

右御参考迄報告ス

本信写送付先 在支公使 奉天、間島、吉林各總領事 輿

春、頭道溝、百草溝各分館主任

56 昭和3年10月27日 在吉林川越總領事より  
田中外務大臣宛

吉林省城学生約三千の吉会鐵道敷設反対示威  
行動について

機密公第五六六号

昭和三年十月二十七日

在吉林

総領事 川越 茂(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

吉林省城学生ノ吉会線反対示威游行ニ関スル件

本件游行ニ関シテハ不取敢拙電第五一号ヲ以テ及報告置キ

タルカ右ハ二十五日夜当地法政専門学校学生発起トナリ示

威請願游行ノ挙行方各校ニ勧誘シタル結果翌二十六日午前

七時約三千ノ学生等ハ城内公共運動場ニ集合シ、交渉署

ニ請願文ヲ提出スルコト二、省議会ニ赴キ各議員及各団体

代表ニ面会力争方請願スルコト三、省長公署ニ赴キ省長ニ

謁見本件経過状況ノ説明ヲ求ムルト共ニ強硬反対方請願ス

ルコト四、伝單ヲ配布シ商民ノ注意ヲ喚起スルコト五、游

行ノ際ハ「打倒帝国主義」「打倒壳国奴」「反対吉敦延長敵

右報告ス

本信写送付先 北京、奉天、在奉天蓋藤理事

(別紙)

## 吉林学生連合会ノ交渉署ニ提出シタル請願書

日本人ノ吉会鐵道建設ニ閔スル要求ハ東三省ノ存亡ニ閔スルモノナルヲ以テ之ヲ拒絶シ以テ祖国ノ滅亡ヲ防止セントコトヲ懇請ス

維フニ日本カ朝鮮ノ死命ヲ制スルハ鮮南鮮北二鐵道アルカ故ニシテ今日本人ハ朝鮮ニ対セント同様苦心慄胆我ヲ謀ラントシツツアルニ不拘我東三省ノ尚滅亡ニ至ラサル所以ノ者ハ吉会鐵道尚完成セサルカ為ナリ、日本人ノ東三省ニ於ケル鐵道計画ハ次ノ二個ナリ

即チソノ一ハ京城ヨリ会寧敦化ヲ經テ吉林ニ至ルモノソノ二ハ京城ヨリ奉天長春ヲ經テ吉林ニ至ルモノ之ナリ、此等ノ範囲計画ニシテ完成センカ之東三省ヲ其ノ勢力範囲ニ置クモノニシテ三省ノ父老ハ地獄ニ沈淪シ永劫脱出スルコト

能ハサルヘシ、日本人ノ虎狼ノ如キ野心ハ既ニ久シキモノニシテ其ノ優越セル勢力ト各種ノ伎倆トヲ以テ我國ヲ蚕食スルコト今ニ至ル數十年只吉会線ノ建設成ラス交通連絡セサルカ為ニ我ヲ如何トモスル能ハサルナリ而モ今ソノ數十一年來観覩シテ得サルモノヲ日本ニ与フルハ盜ニ貸スニ兵ヲ

吉林交渉署宛

57 昭和3年10月28日 在長春永井(清)領事より

田中外務大臣宛(電報)

## 長春城内学生等の反日示威行動について

長春 10月28日後発

第五号

十月二十八日ノ日曜日ヲ利用シ当地城内第二中学校及師範

学校生徒百余名打倒日本帝国主義的走狗、秘密締結六大鐵

路協定反対等ノ文句ヲ墨書セル小旗ヲ振翳シテ城内目抜ノ

鐵道協定反対ノ演説ヲ試ミ又予メ用意シ置キタル贋写版刷

ノ宣伝「ビラ」ヲ撒布シタリ宣伝文ノ趣意ヲ綜合スルニ壳

国奴趙鎮及常蔭槐ハ終ニ帝国主義ノ日本ト密ニ六大鐵道修

以テスルト一般ソノ愚笑フヘク誠ニ日本人カ我ヲ滅ホスモノニアラスシテ東三省人士自ラ己ヲ死地ニ導クモノナリ、伏シテ念フニ貴署ハ吉林唯一ノ外交官庁ニシテ樽組折衝ノ責ヲ負フ、我主權ノ完整ヲ保持セントセハ一ツニ貴署ニ頼ラサルヘスカラシメンカ貴署ニ対スル呪咀恨罵ノ声已ム遠ニ亡國ノ民タラシメンカ貴署ニ対スル呪咀恨罵ノ声已ム時ナカルヘン

而モ今ヤ救亡ノ策乏シカラサルト共ニ最モ急ヲ要スル問題ハ本鐵道建設権ノ拒否ナリ貴署ハ吉林人士ノ志ヲ志トシノ建設ヲ拒否スヘキモノニシテ然ラハ國家ハ安泰ニソノ身ハ榮ユヘシ、若シ民意ヲ顧ミ斯悍然之ヲ許サンカ國亡フト共ニソノ身ハ辱カシメラルヘン

故ニ救國ト福國トハ實ニ此ノ一舉ニ在ルト共ニ榮辱亦茲ニ定マルモノナリ

人民ハ國家ニ付属シテ存在スルモノニシテ朝鮮ノ將ニ亡ヒントスルヤ其ノ皇族華胄ノ中ニハ私利ヲ營ムモノ、國ヲ壳ルモノアリタルカ滅亡ト共ニ曩日ノ高官顯爵存在シ能ハサルニ至レリ殷鑑近キニアリ誠ニ寒心スヘシ、学生等ハ深ク貴署諸公ノ愛國心カ人後ニ落チス断シテ路權ヲ放棄セサルチテ吉会線協定調印ニ反対セヨト云フニアリ

在支公使、奉天、吉林、哈爾賓ヘ転電セリ

58 昭和3年10月30日 在吉林川越總領事より

田中外務大臣宛(電報)

## 吉林学生連合会の反日宣伝活動について

吉林 10月30日前発

本省 10月30日後着

第五五号

往電第四一号ニ閔シ

二十九日朝來吉林学生連合会ハ十數組ノ屋外宣伝講演隊ヲ組織シ市中各所ニ於テ吉会線略図其ノ他ノ宣伝「ボスター」ニ依リ反対趣旨ヲ説明スルト共ニ吉敦鐵道借款成立ノ際教育廳長、省教、農商會長等ハ日本側ニ買取セラレタリトテ之ヲ劣紳壳國奴ト痛罵シ且市中到ル処ニ「打倒壳國

奴」「抵制日貨」「否認吉敦線延長」等各種ノ「ポスター」

ヲ貼付又ハ撒布シタルカ学生等ハ更ニ同日午後三時ヨリ省

議会ニ集合シ日貨排斥日本通貨ノ使用禁止等ノ決行ニ付討

議シ今三十日モ引続キ屋外演説ヲ為ス由ナリ

北京、奉天へ転電セリ

59 昭和3年11月6日

在ハルビン八木(元八)総領事より  
田中外務大臣宛

吉会鐵道その他鐵道敷設問題に対する学生の

反対示威行動について

普通第八〇二号

昭和三年十一月六日

在哈爾賓

総領事 八木 元八(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

吉会其他鐵道敷設問題ニ対スル学生ノ反対示威

行列模様報告ノ件

本件ニ関シテハ往電第二五三号ヲ以テ不取敢及報告置キタ

ルカ其詳細左ノ通り

赴キ興奮セル右一団ハ蔡道尹カ日支合弁吉林興業公司ノ株主タルハ不都合ナリト叫ヒテ同道尹ニ會見ヲ強要シ一署員ハ道尹ノ赴奉不在ナル旨告ケ且極力弁明ニ力メタルモ之ヲ聽カス遂ニ暴行ヲ加ヘントシ警官ノ鎮撫ニヨリ事無キヲ得タル醜行ヲ演スルニ至リ午後四時頃漸ク散会セリ尚同夜各校代表者ハ區立第一中学ニ会集ノ上主トシテ標語ノ撰定並通電ノ草案ニ就キ凝議シタリ

右報告ス

本信写送付先

在支公使、在奉天、吉林、長春各總領事領事

60 昭和3年11月(9)日 在吉林川越總領事より

田中外務大臣宛(電報)

吉林における学生等の示威行動に対し軍隊出動し二十数名逮捕について

吉 林 発

本 省 11月9日後着

当地学生等ハ張作相ノ態度彼等ニ同情アルヲ看取スルヤ

第六三号

本日支那学生数百名ハ再ヒ行列ヲ行ハントシ支那街ニ集合

第二五八号

当地中等以上ノ各学校学生代表ハ本月三日以立省立第六中學ニ会合示威運動ヲ準備シ機ヲ待チ居リタル由ナルカ官刃トノ諒解ツキタル為メカ五日午前十時区立第一中学全生徒先発トシテ遊行示威運動ヲ開始シ先ツ省立第六中学ト合シ更ニ道順ニ従ヒ各校学生ヲ会集セシメ女学生及小学生亦之ニ加ハリ行列ノ先導ニ「打倒帝国主義」「取消不平等條約」「誓保路權」「經濟絶交」「寧為玉碎不為瓦全」ノ文字ヲ大書セル白地ノ大旗數旒ヲ押立テ其他ノ者ハ各自三角ノ小旗ヲ振り翳シ別紙写ノ如キ二様ノ伝單ヲ散布シツツ且要所ニ於テハ指揮者ノ发声ニ合セ「打倒日本帝国主義」「打倒壳國賦」<sup>(賊カ)</sup>「保全路權」「經濟絶交」「誓死爭路」等ノ口号ヲ絶叫シ埠頭区ヲ一巡ノ上午後一時頃長官公署前庭ニ至リ一学生ハ全行列ヲ代表シ慷慨的口調ヲ以テ排日的演説ヲ試ミ之ニ対シ張長官ハ一条ノ訓辭ヲ与ヘ夫ヨリ前記口号ヲ唱ヘ氣勢ヲ示シツツ本館事務所前ヲ通過教育庁ヘ至リタルカ傳序長ハ極力此挙ヲ援助スヘシ諸君ノ愛國運動ハ當然ナリ激勵シ一同ニ飲料ヲ与ヘタリ而シテ同行列ハ更ニ支那街ヲ巡行スル處アリタルカ此時ヨリ付和隨行スルモノ多数トナリ総數一千五六百ニ達シタル趣ニテ最後ニ埠頭区道尹公署ニ

益々調子ニ乗リ昨八日約五百ノ男女学生ハ南北統一、青天白日旗掲揚ヲ迫ル意味ノ伝单ヲ撒布スルト共ニ手ニ手ニ青天白日旗ヲ携ヘテ省議会ニ押寄セ副議長等四名ノ議員ヲ縛上ヶ折柄急報ニ依リ出動セル約百名ノ保安隊ノ制止ヲ聽カス「請看壳國奴」ノ小旗ヲ振リツツ省長公署ニ殺到セル為張司令ハ激怒シ急遽衛兵三個營ニ出動ヲ命シ武力ヲ以テ之ヲ駆逐スルト共ニ首脳者二十数名ヲ逮捕セリ尚右ノ如キ示威運動ニ拘ハラス今日ノ処邦人ニ対シテハ何等侮辱又ハ暴行等ノ事實ナシ

北京、奉天、哈爾賓、間島、長春へ転電セリ

61 昭和3年11月9日 在ハルビン八木総領事より

田中外務大臣宛(電報)

ハルビンにおける学生等の示威行動に対し軍隊出動し二十数名逮捕について

守使部下の兵発砲について

ハルビン 11月9日後発

本 省 11月10日前着

シ特別区方面ニ進行セントスルヲ鎮守使ハ兵ヲ出シテ是ヲ  
阻止シ為ニ一場ノ争闘ヲ起シ鎮守使兵発砲（空砲ナリト云  
フ）セルタメ学生団ハ解隊シ其ノ際数名ノ負傷者ヲ出シタ  
ル由ナリ本官ハ本日書面ヲ以テ学生運動ニ対スル取締ニ関  
シ警告ヲ發スルト共ニ藏本ヲ交渉署ニ遣ハシ御大典中ニ於  
ケル特別警戒方要求シ置キタリ

在支公使、奉天、吉林、長春へ転電セリ

62 昭和3年11月13日 在ハルビン八木總領事より  
機密第八一六号

吉会鐵道その他鐵道敷設問題に対する学生の  
反対示威行動について

昭和三年十一月十三日

（11月26日接受）

在哈爾賓

總領事 八木 元八（印）

外務大臣男爵 田中 義一殿

吉会線其他鐵道問題ニ関スル示威運動狀況報告ノ件

本件学生団再度ノ排日運動ニ關シテハ往電<sup>（文書）</sup>第二五八号並第

二五九号ヲ以テ不取敢電報シ置キタルカ其後伝フル処ニ拋  
レハ鎮守使兵並支那街警備巡警隊对学生トノ衝突ハ學生側  
ニ多数ノ負傷者ヲ出シタル模様ニシテ兵士側ノ発砲ハ空砲  
ニ非シテ實彈ナリシ由又各漢字新聞ハ本件ニ關シ誇大ナ  
ル報道ヲナシ負傷者數ヲ百七十余名ト計上シ入院治療中ノ  
男女学生十數名ノ写真ヲ掲ケタリ  
本事件發生スルヤ特別区教育厅長傅義年ハ張行政長官ノ手  
許迄辞表ヲ呈出シ又長官張煥相ハ十日夜汽車ニテ奉天ニ赴  
キタリ之ヨリ先キ鎮守使丁超ハ吉林ニ往復シ張作相ノ旨ヲ  
含ミテ事件發生当日（九日）朝既ニ帰哈シ蔡道尹ハ十日夕  
刻是亦張作相ノ旨ヲ含ミテ帰任シ何レモ強硬ノ態度ヲ以テ  
学生運動ヲ鎮压スヘキコトヲ宣布シ張煥相等特別区官吏ト  
會議シ若シ特別区側ニ於テ吉林側ノ意向ヲ聽カサルニ於テ  
ハ戒嚴令ヲ布キ吉林軍憲ノ力ヲ特別区内ニ侵入サスヘキ旨  
言明シタル為張煥相モ遂ニ屈シテ学生運動ヲ中止サスコト  
ヲ承允シタル趣ナリ今回ノ学生運動ハ張煥相カ裏面ニ於テ  
煽動シ居リタルハ周知ノ事実ニシテ張カ吉林側ノ圧迫ニ屈  
シ自ラ之ヲ中止サスニ至リシハ大ニ彼レノ面目ヲ潰シ從來  
当地ニ於テ專制王ノ如ク振舞ヒ居リシ彼レノ威望ハ市民ノ  
過クル無キナリ

除ハ関東軍司令官ニ於テ北支駐屯軍ト協力シ適宜処置ス  
(付 箋) 昭和三年五月十六日閣議ニ於テ使用セル書類  
(閣議後局長ヨリ接受)

(欄外記入) 削ル

編 注 「措置案（発表セサル案）」は、第三項を削除し

て、閣議決定されたものと思われるが、それを  
示す文書は見あたらない。

（付 記二）

（昭和三年五月十五日起案）

南北両軍ニ交付スヘキ覚書案（発表スヘキ分）（極秘）  
一、永年ニ亘ル支那戰乱ノ結果一般國民ノ生活ハ極度ノ不  
安ト困憊トニ陥リ支那在留外國人亦居ニ安ンシ業ニ從フ  
ニ由無キ状況ニ有ルヲ以テ戰乱カ一日モ速ニ終熄シ統一  
セル和平ノ支那ヲ見ルニ至ラムコトハ外支人ノ均シク熱  
望スルトコロニシテ殊ニ支那ノ隣邦トシテ利害關係特ニ  
深キ帝國ノ翹望シテ措カサル所ナリ  
今ヤ動乱京津地方ニ波及セムトスルニ当リ茲ニ一般ノ均

シク抱懷スル熱烈ナル和平ノ希望ヲ表明スルハ帝國政府  
ノ責務ナルヲ信スルト共ニ若シ之レヲ機會トシテ南北交  
戰者カ世界ノ趨勢ト支那ノ民意トニ適應シタル条件ヲ以  
テ速ニ和平ノ商議ニ入ルニ於テハ帝國政府ノ本懐之レニ  
過クル無キナリ

二、滿州ノ治安維持ハ帝國ノ最モ重視スル所ニシテ苟クモ  
同地方ノ治安ヲ紊シ若クハ之レヲ紊スノ原因ヲ為スカ如  
キ事態ノ發生ハ帝國政府ノ極力阻止セムトスル所ナリ  
戰乱京津地方ニ波及シタル以後ニ於テ武装セル軍隊ノ滿  
州ニ出入スルコトハ其ノ南北何レノ部隊ニ屬スルヲ問ハ  
ス同地方ノ治安ヲ紊スノ因ヲ為スモノナルヲ以テ若シ不  
幸ニシテ和平ノ商議ニ入ルヲ許ササル事情ノ為メニ戰爭  
繼續セラレ戰乱京津地方ニ進展シ其ノ禍亂滿州ニ及ハム  
トスル場合ニハ帝國政府トシテハ滿州治安維持ノ為メ適  
当ニシテ且ツ有効ナル措置ヲ執ラサルヲ得サルコトアル  
ヘシ然レトモ交戰者ニ対シ厳正中立ノ態度ヲ持スヘキ帝  
國政府ノ方針ニ至ツテハ固ヨリ何等変改無キ次第ナルカ  
故ニ右ノ如キ措置ニ出ツル場合ニ於テモ其ノ時機ト方法  
トニツキテハ兩者ニ対シ何等不公平ナル結果ヲ生スルニ

ニ交付スヘキ覚書案（発表スヘキ分）

支那南北両軍ニ交付スヘキ覚書

（昭和三年五月十六日決定）

永年ニ亘ル支那戦乱ノ結果一般国民ノ生活ハ極度ノ不安ト  
困憊トニ陥リ支那在留外国人亦居ニ安ンシ業ニ從フニ由ナ

キ状況ニ有ルヲ以テ戦乱カ一日モ速ニ終熄シ統一セル和平  
ノ支那ヲ見ルニ至ラムコトハ外支人ノ均シク熱望スルトコ

ロニシテ殊ニ支那ノ隣邦トシテ利害関係特ニ深キ帝国ノ翹  
望シテ措カサル所ナリ然ルニ今ヤ動乱京津地方ニ波及セム  
トシ満州ノ地モ亦將ニ其ノ影響ヲ蒙ラムトスルノ虞有ルニ

至レル処抑モ満州ノ治安維持ハ帝国ノ最モ重視スル所ニシ  
テ苟モ同地方ノ治安ヲ紊シ若ハ之ヲ紊スノ原因ヲ為スカ如  
キ事態ノ發生ハ帝国政府ノ極力阻止セムトスル所ナルカ故

ニ戰乱京津地方ニ進展シ其ノ禍乱満州ニ及ハムトスル場合  
ニハ帝国政府トシテハ満州治安維持ノ為適當ニシテ且有効  
ナル措置ヲ執ラサルヲ得サルコトアルヘシ然レトモ交戦者

ニ対シ嚴正中立ノ態度ヲ持スヘキ帝国政府ノ方針ニ至ツテ  
ハ固ヨリ何等変改無キ次第ナルカ故ニ右ノ如キ措置ニ出ツ

二 満州治安維持に関する覚書と張作霖爆死関係

## 二 満州治安維持に関する覚書と張作霖爆死関係

64 昭和3年5月15日 在中国芳沢公使より

田中外務大臣宛（電報）

### 張作霖より和平統一に対する列国の援助要請

について

北京 発

本省 5月15日前着

往電第六〇三号ニ閑シ

第六三一号

セリ

十二日外交部沈秘書ヨリ天羽ニ対シ電話ニテ今般大元帥ハ

和平統一ノ目的ヲ以テ停戦命令ヲ出シタルカ（後程右原文  
及英訳文送付シ越セリ）日本モ予テ支那ノ和平統一ヲ希望

セル事實ニ鑑ミ右目的達成ノ為此ノ際日本及各國ノ援助ヲ  
得度右大元帥ヨリ外交總長ニ命令アリ總長ノ命ニ基キ當國

公使ニ伝ヘラレ度シ通シ來リタルニ付天羽ハ公使ニモ御  
伝ヘ致スヘキカ右援助ノ結果ハ内政干渉トナラサルヤト質  
シタルニ单ニ「モーラルサポート」ノ意味ニ過キスト答ヘ

ル場合ニ於テモ其ノ時機ト方法トニツキテハ両者ニ対シ何等不公平ナル結果ヲ生スルニ至ラサル様周到ノ注意ヲ払フ  
ノ用意有ルコトヲ確言ス

（付記一）

（五月十六日起案）

措置案（発表セサル案）（極秘）

一、最近ノ機会ニ北方ハ張作霖及南方ハ蔣介石等ニ外交機（付記一）  
関ヲ通シテ別案覚書ヲ交付スルコト

二、右覚書交付ニ当リテハ和平ニ対スル希望ヲ略説スルト  
同時ニ戦乱一旦京津方面ニ進展シタル以後ニ於テハ南北  
何レノ部隊タルヲ間ハス武装軍隊ノ満州ニ出入スルコト

ヲ阻止スヘキ決心ナルコトヲ明瞭ニ説明スルコト

三、右ノ外張作霖ニ対シテハ同時若ハ交付直後最近ノ機会  
ニ非公式ニ引退ヲ勧告スルモ若シ右勧告ニ応セサル場合

ニハ更ニ対策ヲ講スルコト

四、第一項覚書提出期ハ全般ノ情勢ヨリスレハ今日ヲ以テ  
既ニ其時期ナリト認ム

五、北方軍隊ノ閨外遁入及南方軍隊ノ追撃阻止又ハ武装解  
除ニ付

ノ用意有ルコトヲ確言ス

（付記二）

（五月十六日起案）

措置案（発表セサル案）（極秘）

一、最近ノ機会ニ北方ハ張作霖及南方ハ蔣介石等ニ外交機（付記一）  
関ヲ通シテ別案覚書ヲ交付スルコト

二、右覚書交付ニ当リテハ和平ニ対スル希望ヲ略説スルト  
同時ニ戦乱一旦京津方面ニ進展シタル以後ニ於テハ南北  
何レノ部隊タルヲ間ハス武装軍隊ノ満州ニ出入スルコト

ヲ阻止スヘキ決心ナルコトヲ明瞭ニ説明スルコト

三、右ノ外張作霖ニ対シテハ同時若ハ交付直後最近ノ機会  
ニ非公式ニ引退ヲ勧告スルモ若シ右勧告ニ応セサル場合

ニハ更ニ対策ヲ講スルコト

四、第一項覚書提出期ハ全般ノ情勢ヨリスレハ今日ヲ以テ  
既ニ其時期ナリト認ム

五、北方軍隊ノ閨外遁入及南方軍隊ノ追撃阻止又ハ武装解  
除ニ付

ノ用意有ルコトヲ確言ス

（付記三）

五月十六日の閨議に提出された「南北両軍